

ノース・ダコタ州：小麦作柄と気象状況 2010年10月17日現在（最終）

生育概況：2010年産硬質春小麦の播種開始は、早春の好天条件下で平年より早く開始された。しかし乍、5月中旬からの湿潤な天候で播種作業は遅れ、播種は5月下旬にようやく最終段階となり、一部は6月にずれ込んだ。小麦の生育期の土壌水分は昨年に続き良好な状態であり、水分不足のストレスは極めて少なかった。生殖成長期から登熟期の気温は平年より低目で推移し、高単収が期待された。病害並びに虫害の恐れは少なかった。収穫は8初めに多少例年より早めに開始されたが、9月に入り天候不順となり収穫に遅れが出た。9月下旬になり天候が快復し、収穫作業が再開され収穫は10月第1週に終了した。

生産量予想：

2010年9月30日付けUSDA発表の“Small Grains Summary”によれば、ノースダコタ州の硬質春小麦の単収は45.5 bu/acre(昨年：46.0 bu/acre)であり、豊作型の気象条件であったが、単収は昨年より0.5 bu/acre下回った。収穫面積は昨年と同じと発表され、収穫量は昨年より僅かに少ない286,650,000 bushels(約780万トン)と見込まれた。詳細は下表の通り。

2010年9月30日付けUSDA硬質春小麦生産量

Crop yr.	Harvested Area 1000 Acres			Yield Bushels/acre			Production 1000 Bushels		
	2008	2009	2010	2008	2009	2010	2008	2009	2010
N Dakota	6,400	6,300	6,300	38.5	46.0	45.5	246,400	289,800	286,650
USA	13,517	12,955	13,379	40.5	45.1	46.9	548,004	584,411	626,937

品質概況：凡そ85%の硬質春小麦はUS No.1となる見込みであり、平年より高目の容積重（平均61.6 lbs/bu）と低被害粒混入（平均0.1%、平年：0.4%）が報告された。平均蛋白質含有量は、平年より多少低い平均13.7%と報告されたが、2009年産小麦より良い結果であった。現在まで出回った小麦の50%以上が14.0%以上の蛋白質と報告された。Vitreous Kernelの混入率は70%で昨年並みであった。

製パン適正試験では、2009年産小麦と比較し生地の強さは幾分強いが伝統的なHRSの生地より多少弱めとの結果であった。パンのバリュームは比較的小さく、他の要素も多少低目のスコアと報告された。

以上